

特別シンポジウム「薬を創るということ」

日 時：12月4日（水）13:15～15:45

会 場：第6会場（神戸国際会議場1階 メインホール）

※本シンポジウム終了後に、会場前ホワイエにて、各企業からの講演者と直接対話いただける場を設けます。

企画委員：塚原 克平（エーザイ株式会社 ネクストジェネレーションシステムズ機能ユニット）

坂田 恒昭（塩野義製薬株式会社 Global Development Office）

前田 博昭（第一三共株式会社 先端医薬研究所）

創薬のための研究が実際にどのように行われているのか。分子生物学研究がどのように活かされているのか。本シンポジウムでは、製薬企業やベンチャーの方々による創薬の現場や様々な取り組みを紹介する。そして産官学を問わず、創薬に関わる人々、これから関わろうとする人々が、それぞれの立場でどのように協力していけば、疾病で苦しむ世界中の人々に希望を届けることができるのかを、共に考える機会としたい。

<パネリスト>

小泉 誠（第一三共株式会社 研究開発本部 バイオ統括部 バイオ基盤研究所）

核酸医薬に应用可能な修飾核酸 ENA オリゴヌクレオチド、および修飾核酸を用いたエキソンスキッピング法によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療について紹介する。

浅海 真（アステラス製薬株式会社 研究本部 分子医学研究所）

疾患の原因遺伝子を特定、その遺伝子を標的とする薬剤を創製するとともに、より効きやすい患者さんを特定するためのコンパニオン診断薬を同時に開発する戦略（Precision Medicine アプローチ）について紹介する。

赤塚 浩之（田辺三菱製薬株式会社 先端医療研究所）

Omics 解析の創薬利用の例として、ウルソデオキシコール酸（UDCA）の糖・脂質代謝改善作用を遺伝子発現解析およびメタボローム解析を駆使して明らかにした事例を中心に紹介する。

小島 健介（協和発酵キリン株式会社 探索研究所）

昨年承認・販売された抗体医薬品の開発背景を例に、協和発酵キリンの技術開発におけるチャレンジスピリットや、それを創薬につなげるための取組み等を紹介する。

伊藤 昌史（エーザイ株式会社 ネクストジェネレーションシステムズ機能ユニット）

iPS 細胞の創薬応用について、確立されつつある安全性評価への応用例と、周辺技術のとの融合による創薬スクリーニングの実現に向けた取り組みについて、実例を交えながら解説する。

松本 弥生（塩野義製薬株式会社 Global Development Office）

2007年度より実施しているオープンイノベーションの試みのひとつである、シオノギ創薬イノベーションコンペ（FINDS）の話を中心に、グローバル化への挑戦、産学連携の課題について紹介する。

上野 隆司（Sucampo Pharmaceuticals, Inc. CEO, CSO, Founder and Chairman of the Board）

自ら発見した細胞の修復、再生にかかわる機能性脂肪酸「プロストン」を、日米で2つの新薬として世に送り出し、その過程で2つの会社を創業し上場した自らの経験を、創薬、研究開発、ビジネスの観点を織り交ぜて紹介する。

赤畑 渉（VLP Therapeutics LLC CEO）

自ら発見した Virus Like Particle の技術を元にしたワクチン開発を行うべく昨年米国にベンチャーを設立した。NIHでの基礎研究、製薬会社との共同臨床試験、ベンチャーを取り巻く環境、現在の研究について紹介する。

麻生 雅是（Cell Gen Tech Inc. CEO）

世界に先駆けて遺伝子導入脂肪細胞移植による治療法開発を行うベンチャーを立ち上げた。遺伝子・細胞医薬を日本で実現しようとした時に直面した自らの経験を紹介し、この分野の将来像を議論したい。

芦田 耕一（株式会社産業革新機構）

アカデミアから生まれた画期的な発見・発明を、イノベーションの担い手であるベンチャーそして製薬企業へとつなげるエコシステム構築に関する日本の課題について解説する。

<モデレーター> 塚原 克平（エーザイ株式会社）／坂田 恒昭（塩野義製薬株式会社）／前田 博昭（第一三共株式会社）